

## 奈留ノコビ浦

### 視認できる地殻の割れ目

奈留島で最も西にある半島のこの細い首では、地面の裂け目がはっきりと見えます。これは、五島列島を北西から南東に移動させ形づくった、地面を引っ張る力による実際の断層のひとつです。

この場所にたどり着くには、近代的なトンネルの建設中に出た廃石を使って作られた高い壁がある道路の端まで行かなければなりません。廃石は、太平洋から吹く強風（夏の終わりから秋によくやってくる台風と冷たい冬の風）を防ぐために積み上げられました。この防風壁からは、海と島全体を高めから眺めることができ、壁の真下には、断層線を示す紛れもない地面の裂け目があります。

いずれかの方向に 20 分ほど歩くと、黒曜石の鋳床が見つかります。黒曜石は、旧石器時代から縄文時代（紀元前 10,000 年～紀元前 300 年）にかけてナイフや矢じりなどの重要な道具を作るのに使われた火山ガラスです。五島列島では、黒曜石で作られたナイフなどの人工の道具が発見されていますが、奈留ノコビ浦には大きな鋳床があるにもかかわらず、奈留島の黒曜石から作られたものはまだ発見されていません。